



理念

私たちは良質で安全な医療を提供し、地域の皆さまに親しまれ、信頼される病院をめざします。



基本方針

- 1、接遇とサービスに心がけ、心が安らぐ癒しの環境を整えます。
- 2、高度で良質なわかりやすい医療を提供します。
- 3、包括医療を実践し、地域との連携を大切にします。
- 4、救命救急医療体制の確立と小児、周産期及び終末期医療の充実をめざします。
- 5、職員の教育・研修を推進し、自己研鑽に努めます。
- 6、病院で働く人が一体となり、経営の健全化と満足感のある職場をめざします。

地域がん診療拠点病院として

厚生労働科学研究補助金がん臨床研究事業

分担研究者 君津中央病院 医務局次長 柴 光年

君津中央病院は厚生労働大臣より平成14年8月13日に地域がん診療拠点病院の指定を受けました。現在、千葉県内の地域がん診療拠点病院は千葉県がんセンター、君津中央病院、成田赤十字病院、旭中央病院、千葉労災病院、亀田総合病院の6病院が指定を受けています。

地域がん診療拠点病院とは、我が国に多い肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん等について、地域の医療機関との連携を図り、継続的に全人的な質の高い医療を提供するため、都道府県知事の推薦により厚生労働大臣から指定された病院で、その役割は以下のとおりです。

1. 診療体制として

- ① 我が国に多いがんについて、専門的医療体制を有すること
- ② 緩和医療を提供する体制を有すること
- ③ 地域の医療機関からの診療に関する相談に応じること
- ④ 患者からの相談に適切に対応できる医師が配置されていること
- ⑤ 院内がん登録システムが確立していること

2. 研修体制が整備されていること

3. 情報提供体制として

- ① 地域におけるがん診療に関する情報をホームページ等を通じて適切に公開すること
- ② 地域の医療機関からの診療に関する相談等に応じ情報を提供すること
- ③ 全国的協議会にがん患者の5年生存率などの情報を報告するなど、総合的ながん情報の収集提供に取り組むこと

以上の体制とあわせて厚生労働科学研究推進事業として当院は、"がん生存者を中心とした心のケア、医療相談の在り方に関する調査"に関する研究班の一員として、進行期肺悪性腫瘍患者の在宅医療支援に関する研究をテーマとして取り組んでいます。

これは、急性期治療を終了したがん患者が在宅医療を受ける際に、患者および家族の精神的支援をはかるために、IT機器などによる遠隔指導を含めて、患者や家族に必要な支援ツールの開発および、医療支援が患者や家族に対して与える精神的な面からの影響と問題点を抽出することを目的にした調査研究です。この調査研究の結果をふまえて、がん患者が自宅に居られる期間を長くしたいとの患者および家族からの要望に応えていけるように、より効果的な在宅医療支援を展開していく予定です。

また、地域がん診療拠点病院として地域の医療機関との交流を推進していくために、平成15年2月から定期的に、がん医療の最先端あるいはがん患者の心のケアを中心とした、がん医療均てん研修会を開催しています。今後とも、多数の医療関係者の参加をおまちしています。



第5回がん医療均てん研修会



第6回がん医療均てん研修会

がん医療均てん研修会開催実績

会 場	日 時	講 師	演 題	参加者数
木更津ベイプラザホテル観月	平成15年 2月27日(木)	滝口 裕一 (千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科講師)	「肺がん検診について」	112
		伊藤 真美 (花の谷クリニック院長)	「旅立ちまで生を支える緩和医療」	
木更津ベイプラザホテル観月	平成15年 11月27日(木)	宮内 充 (プレストサービス社代表 川上診療所 副院長)	「乳がん治療の現状」	83
		大岩 孝司 (さくさべ坂通り診療所 院長)	「がん患者の心のケア」 ー在宅ホスピスの立場からー	
木更津ベイプラザホテル観月	平成16年 2月27日(木)	畠 清彦 (財団法人 癌研究会附属病院 化学療法科部長)	「がん化学療法最近の治療」	95
		遠藤 博久 (君津中央病院 精神科医長)	「がん患者の心のケア」 ーサイコオンコロジーの立場からー	
東 京 ベ イ プラザホテル	平成16年 12月2日(木)	齋藤 典男 (国立がんセンター東病院 手術部長)	「下部直腸がんにおける肛門機能 温存の適応拡大にむけて」	78
		田原 真由美 (東京都立駒込病院 次席)	「緩和ケアにおける看護師の役割」 ー東京都豊島病院PCUの実績からー	
東 京 ベ イ プラザホテル	平成17年 2月24日(木)	江原 正明 (千葉大学大学院腫瘍内科学 助教授)	「肝細胞癌に対する 早期診断と治療の進歩」	76
		小池 真規子 (目白大学人間社会学部心理 カウンセリング学科 教授)	「がん患者・家族との コミュニケーション」	
東 京 ベ イ プラザホテル	平成17年 11月25日(金)	有賀 悦子 (国立国際医療センター 緩和ケア科長)	「現場力！がん性疼痛緩和の実際」 ー併用療法からオピオイド ローテーションまでー	107
		永田 一郎 (防衛医科大学校名誉教授 埼玉医科大学産婦人科客員教授)	「子宮癌の診断と治療」 ー最近の知見ー	
※ 君津中央病院	平成17年 12月14日(水)	高木 敏之 (千葉県立がんセンター 医療局長)	がん医療の均てん化と 地域がん診療拠点病院の役割	40
		木村 秀樹 (千葉県立がんセンター 呼吸器科部長)	がん医療均てん化へ向けての 千葉県がんセンターの試み	

※千葉県がんセンター主催による千葉県がん診療レベルアップ事業

当 院 の 免 震 構 造

耐震構造が注目の的になっている昨今、君津中央病院の免震構造についてご説明します。

君津中央病院の建物は、地下1階、地上10階、高さは53.55メートルの規模で延べ床面積は51,524平方メートル、建物の用途上、より高い耐震安全性を確保することを目的として免震構造を採用し、建物上部は免震構造に相応した耐力と剛性を確保するために鉄筋コンクリート造ラーメン構造となっています。

免震装置は、基礎部と地下1階の間に設置し、上部構造への地震力を軽減するため「天然ゴム系積層ゴム（大小合わせて147個）とU型鋼棒ダンパー」を一体とした支承部材を採用し、地域災害拠点病院として災害時にも十分対応できる免震機能を確保しています。

※ラーメン構造

「ラーメン構造」は、重量鉄骨造や鉄筋コンクリート造などに多用されている剛接合による架構です。「剛接合」とは、部材と部材の接合が強固で、部材中心線をなす角度が力を受けても変化しないと考えられている接合です。

ラーメン (rahmen) はドイツ語で「額縁」という意味。

診療科紹介

君津中央病院脳神経外科

昭和50年の脳神経外科創設以来30年間、地域の脳神経外科疾患診療の中心として、一般外来診療から救急診療までカバーして参りました。特に救急診療は、三次救急を担う救命救急センターの役割を果たすため、24時間体制で重症の脳神経疾患の患者様を受け入れるのは勿論のこと、軽微な頭部打撲なども地域住民の皆様の安心のため、診察依頼を断らないことをモットーにしてスタッフ一同頑張っています。現在は7名の常勤医が勤務していますが、その内5名が脳神経外科専門医となっています。当科の診療実績は入院患者数、外来患者数、手術件数すべてにおいて千葉大学脳神経外科教室関連の19施設の中で1、2を争う数値をあげる程、活発に診療を行っています。

脳神経外科が扱う疾患として多いものは脳血管障害（くも膜下出血、脳出血、脳梗塞など）、脳腫瘍、頭部外傷が挙げられます。先ず脳血管障害のくも膜下出血ですが、人口の高齢化に伴って最近増えつつある疾患で、脳の動脈にできた動脈瘤の破裂が原因となっています。再破裂を起こすと致命的になることが多いため、できるだけ早く治療しなければいけませんが、その方法には現在2つのやり方があります。1つはクリッピング術といって頭の骨を開けて処理する方法で、もう1つがカテーテルを使った血管内治療という方法です。どちらの方法にも長所、短所がありますので、個々の患者様の病態に合わせて選択するというのが我々の方針です。ここ数年、年間50名前後の患者様の治療をおこなっていますが、その治療成績は、手術前の状態が比較的良好なグループでは9割がた社会復帰を果たされています。最近、脳ドックなどにより脳動脈瘤が破裂前に発見されることが多くなりました。その治療方針については、患者様やご家族の方とよく話し合って決めさせていただいておりますが、他の病院の医師のセカンドオピニオンを聞きたいというご希望に対しても積極的に協力させていただいております。

脳梗塞も脳出血も、ともに急に出現する手足の麻痺やしびれ感、言語障害を呈するため症状だけではどちらの疾患か判断がつきにくいことが多いのですが、その治療法はまったく異なります。最近認められた脳梗塞に対する新しい治療法は副作用も強いいため、発症後3時間以内に開始しなければなりません。その治療法の恩恵を受けるためにも、突然の顔、手足の脱力、しびれ感、言葉が喋りにくい、ものが見えにくいなどの症状が出たら、自宅の様子を見たりしないで急いで当院を受診していただきたいと思います。現時点でそのt-P Aという薬剤を使った脳梗塞治療を行えるのは、君津医療圏の4市では当院だけです。脳血管障害だけを見ても我々の果たさなければならない責任はますます大きくなって来ていると自覚しております。

誌面の関係で他の疾患の治療状況や我々の治療方針を残念ながらお伝えすることができません。その話は別の機会に譲りますが、最後に、地域医療を支えていただいている地域の開業医の先生方、病院の先生方に感謝申し上げますとともに、これからも今まで以上のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

（脳神経外科部長 須田 純夫）



看護局職場紹介

10階東病棟（呼吸器科）



はじめまして！病棟最上階に位置する当病棟は呼吸器内科が専門です。比較的長期の治療が必要なため、少しでも不安なく治療を受けていただけるよう“看護のインフォームドコンセント”を重視し患者さまはもちろんのこと、ご家族様の思いも出来る限り取り入れられるよう医師をはじめ医療スタッフ一丸となって取り組んでいます。「安全」「安楽」「安心」をモットーに笑顔と優しさ、そして高い専門性をもって患者さまに満足していただける看護を提供できるよう頑張っています。

（10階東病棟師長 関 里美）



カンファレンス風景

リハビリテーション科紹介



リハビリテーション科では全ての診療科から処方された患者様のリハビリを行っています。患者様とご家族、主治医、看護師、ケースワーカー等と連携し、機能回復、早期退院、退院後の家庭生活を支援いたします。また地域リハビリテーション支援センターとして近隣の病院、施設との勉強会、研修会を主催しています。スタッフは理学療法10名、作業療法3名、言語療法4名、事務2名です。病院一広くて明るい部屋、汗と涙と笑いにあふれた部屋で、元気いっぱい働いています。

<理学療法部門> 気はやさしくて、力持ち。トレーニングマシンなどを使った筋力強化や体力向上練習、車椅子の乗り降りや、歩行練習を行っています。自宅へ退院される方には家屋改造指導なども行います。

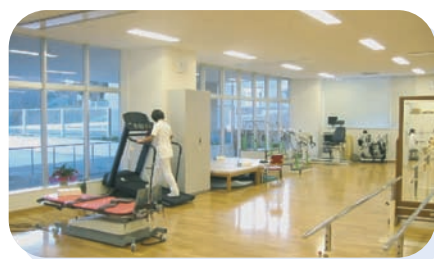
<作業療法部門> 洗面、着替えなど身の回りの動作や、家事の練習を支援しています。治療手段として、実際の動作練習はもちろん、手工芸などの作業活動、必要に応じて自助具を使用した動作訓練などを行っています。自慢は、和式生活を想定した四畳半の畳スペースや、IHクッキングヒーター付き昇降キッチンです。

<言語療法部門> 言語聴覚士は脳卒中や脳挫傷といった脳血管障害によってことばに障害のある方たちにことばの訓練をおこなっております。また、最近では病気によって食べ物を飲み込むことができなくなってしまった方に飲み込みの訓練もおこなっております。入院患者様だけでなく、外来患者様も多く、言語障害や飲み込みの障害で悩まれる地域の皆様に少しでもお役に立てるように日々自己研鑽に努めております。

（リハビリテーション科長 村西 義雄）



地域の病院、施設との研修会



リハビリテーション訓練室

地域医療センターからの風

ご存じ
ですか

地 域 連 携 室

こんにちは。地域連携室です。

地域連携室は、医療福祉相談室、訪問看護室と協力しながら地域医療センターを構成し、地域の医療機関との連携事業を行っています。

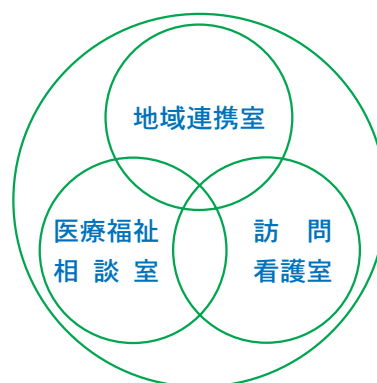
連携事業の主なものは、地域で開業されている先生方や近隣の病医院からの患者様の紹介やCT・MRI・内視鏡などの検査依頼に関する事務管理です。

そのほかに、登録された地域の先生方と当院の医師とで一緒に診療する開放型ベッドの管理や、君津木更津医師会との連携会議の事務局など、センターの庶務的な仕事も担っています。

もうひとつ、人間ドックの予約管理事務も重要な仕事です。

いずれは、医療だけではなく、保健・福祉も包括した総合的な当院と地域の窓口となるよう充実させたいと考えています。

地域医療センター



地域の先生方のかかりつけ医とされ、当院を受診するときに紹介していただくと、初診のときでも予約ができます。

センター長 磯部 勝見（副院長・脳神経外科）



看護局だよ

インフルエンザに負けないで！



昨年も猛威を振るったインフルエンザの時期が近づいています！
皆さんもご存知のようにインフルエンザは命さえおとしめることもあります。

関心と予防があなたの身をインフルエンザから守ります。

さあ今からでも遅くありません！「うがい」「手洗い」「休息」を！
そして「おかしいな？」と思ったら早めの受診を・・・。



～地域包括医療の発信源をめざして～

大佐和分院 院長 桐谷 好直



少子高齢化の加速にともない、国の医療政策はめまぐるしく変容している。その中で「地域包括医療の充実」は最重要項目の1つに位置づけられている。医療・保健・福祉・介護を包括した四位一体の医療提供体制を推奨していると思われる。

大佐和分院は、この国策に沿い、包括医療・包括ケアを実践し「患者さんの視点に立った医療」を提供することこそ最善の選択肢と考え、日々の診療にあたっている。

その方向性は、取りも直さず、患者さんとそのご家族に安心感、信頼感そして満足感を不断に与えつづけ得るものと確信している。勿論、当院は発展途上にあり、療養環境の整備等のハード面、良質な医療人の育成（良質な医療を提供する第一歩）等のソフト面、この両面の変革がその為には必要不可欠である。

これからも大佐和分院職員一同は「一隅を照らす」の気概で地域医療にとりくみ「惻隱の情」に満ちた病院に一步一步近づけていきたいと考えている。そして富津市民のみならず四市の市民の皆様にも愛されて育てられる土台のしっかりした病院を構築し、地域包括医療の実践を通じて良き発信源となるべく鋭意努力していきたい。

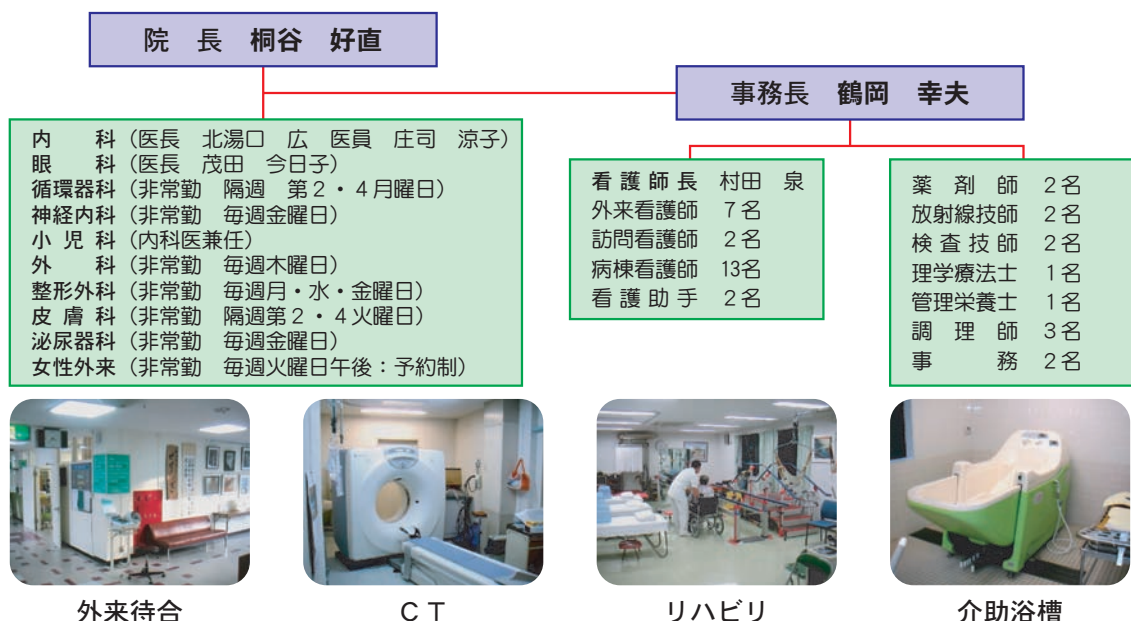
最後に、市民の皆様、行政機関並びに医師会各位のご支援・ご協力・叱咤激励を衷心よりお願い申し上げます。

大佐和分院ってどんなところ？

当院は、1964年富津市の大貫（当時の大佐和町）に開設されました。規模は小さいですが、1日平均患者数（外来）265人、病床数36床、内科をはじめとする10科をもつ地域の頼れる病院です。予約制の診療科目以外の外来受付時間は、6時からとなっています。これも漁師町である富津市ならではのいえましょう。地域密着型の病院として、患者様が安心して訪れることのできる病院を職員一同目指しております。



大佐和分院正面



病院クラブ紹介

バレーボールクラブは月1、2回の練習を行っています。メンバーは看護師をはじめとし、医師、作業療法士など様々な職種の病院スタッフで構成されており、他部署のスタッフとの交流を深め、リフレッシュできるように楽しく練習をしています。また、毎年千葉県病院対抗バレーボール大会に参加し、他病院との親睦を深めています。
(バレーボールクラブ代表 伊東あゆみ)



院内コンサートのお知らせ

昨年の12月24日に、君津中央病院4階講堂でクリスマスコンサートが入院中の患者様やご家族の方など100名近くのご参加により開催されました。

第1部は清家あさ美さんのピアノによるクリスマス・ソング メドレー、第2部は田熊八千代さんのピアノと中島恭子さんのボーカルによるジャズ&ポピュラーソングメドレーが演奏されクリスマスムード一杯のコンサートになりました。

また、平成18年3月4日(土)「君津プレジール」吹奏楽コンサート、

平成18年4月23日(日)かずさジュニアオーケストラ

以上の院内コンサートを予定しておりますのでどなたさまもお気軽にお越しください。



ジャズ&ポピュラーソングメドレー (ピアノ & ボーカル)



院内ボランティアスタッフが準備、運営をしています。

病院の組織の変更について

君津中央病院と大佐和分院は昭和39年以来、木更津市、君津市、富津市と袖ヶ浦市が一部事務組合を組織して運営してきました。

本年4月1日からは、一部事務組合の名称を現在の「君津郡中央病院組合」から「君津中央病院企業団」に変更します。

従来の組織と違うところは、名称のほか、首長の互選により選ばれた管理者ではなく、専任の事業管理者(これを企業長といいます。この名称は、地方公営企業法で明記されています。)を新たに置いて病院事業の運営にあたる点です。

詳しくは、事務局総務課にお問合わせください。

編集後記

立春とは暦の上のことで、まだまだ寒い日が続いております。

この季節は路面が凍結し、車を運転する方には大変危険な時期でもあります。

お出かけの際は、余裕を持って安全運転にお心掛けください。

また、今年は杉花粉飛散量が昨年の10分の1程といわれていますが、花粉症の方にとってはいやな季節でもあります。早めの治療をお勧めいたします。(M. I)